



ヒーロー

矢柴俊博 伊藤かずえ 佐藤元大 草村礼子
 児玉頼信 春延朋也 小池真吾 池田英

企画のねらい

「無縁社会と家族」～生きること つながること～

近年、社会から孤立している人が増えてきており、孤独死などが大きな社会問題となっています。家族や地域、職場のつながり、いわゆる血縁や地縁、社縁の希薄化による問題です。こうした「無縁社会」と呼ばれる社会状況に対し、私たちに何ができるのでしょうか。

この作品の主人公の行男は、働き盛りのサラリーマンです。地域社会と縁を持たなかった行男が、あるきっかけから地域と関わるようになり、今まで意識しなかった近所の高齢者や家族と出会っていきます。そうした体験の中で、自分の家族との絆も深めていきます。

「無縁社会」の中で、地域で起こる身近な人権問題に対し、傍観者としてではなく、主体的に行動することで、新たな地域のつながりを結んでいく大切さを実感してもらうために、このドラマを制作しました。



企画／兵庫県・(公財)兵庫県人権啓発協会
 企画協力／兵庫県教育委員会
 製作／東映株式会社

■ 上映時間 34分 本体価格 80,000円(税抜)
 DVD … 字幕副音声版 [C#7208]
 VHS … 通常版 [C#7209]
 VHS … 字幕副音声版 [C#7210]



鶴 巻行男は町内会の副会長。秋祭りのヒーローショーで、ヒーロー役として出演し、転倒して腕を骨折する。共働きで忙しいにもかかわらず副会長を引き受けたことへの不満や、怪我をしたことへのふがいなさを妻の恭子にもらす。楽しみにしていた家族旅行もキャンセルになってしまい、リフレッシュ休暇を一人で過ごすことになる。

ある日行男は、見知らぬ少年が他の少年たちに囲まれ、ポシェットを川に投げ捨てられるのを目撃するが何もできない。町内会長の大伴則介から、一人暮らしの牧野富枝に老人会のチラシを届けてほしいと頼まれた行男は、富枝の元を訪れるが不審者として警戒される。その時、富枝と同じアパートに住むポシェットの少年・真司がいじめられているのを見かける。富枝はいじめっ子を一喝して追い払い、何もできない行男に呆れる。



ネ ット上での差別的な書き込みの実態を知るために、大伴は行男にその検索の方法を尋ねる。差別に対して「自分は関係ない」と言う行男に、大伴は「他人事にせず、皆でなくしていかないと」と諭す。大伴の親友・高平五郎の店で、真司が弁当を万引きして捕まる。事情を知っていた行男は、真司をかばって代金を支払い、真司を家まで送る。

真 司と行男は、真司のアパート前で富枝と鉢合わせする。真司がお腹を空かせているのを知った富枝は、二人におにぎりを作る舞う。父と二人暮らしの真司は、父の出張中一人で留守番をしており、ポシェットは亡くなった母が作った形見で、留守中の食費が入っていたという。父親に心配をかけたくない真司は、このことを秘密にしてほしいと頼む。



行 男は真司の父・竜樹に偶然出会い、真司がポシェットを無くしたことを怒らないでくれと頼むが、「余計なお世話だ」と拒絶される。余計なことをしなければよかったと後悔する行男は、「いじめられている真司くんを放っておいていいのかな」と恭子に言われ、かつて子どものピンチに駆けつける正義のヒーローに憧れていたことを思い出す。

翌 日、「ヒーローになる」とメモを残し家を飛び出した行男は・・・。



学習の
ねらい

- 登場人物の言動を通して、周りの人との日頃のつながりを振り返る。
- 身の回りの人権問題に対して、他人事にするのではなく、主体的に行動することの大切さを認識する。
- 地域の人が一つの家族のように縁を結ぶことの大切さを実感する。